

委員会セッション

[2M_PL] 「原子力に関わる人文・社会科学的総合知問題」研究専門委員会
[社会・環境部会共催]

「風評（被害）」を総合知から再考する

(3月12日(木) 13:00~14:30 M会場) 座長(関西大) 土田昭司

- (1) 「風評（被害）」に対する「総合知」の見地からの視座の転換
(東京電機大) 寿楽 浩太
- (2) 「風評（被害）」はどのように語られてきたか
(北大) 竹田 宜人
- (3) 福島第一原子力発電所事故以降の「風評（被害）」問題の実相
(元JAEA) 佐田 務
- (4) リスクの社会的増幅メカニズムからみた「風評被害」の構造
(電中研) 桑垣 玲子
- (5) 全体討議

【見どころ】 (200~300字)

本委員会では、「風評（被害）」問題を、国が科学技術・イノベーション基本計画でも掲げている「総合知」の見地からの検討を要する最重要の課題のひとつと位置づけ、「日本固有の『風評』概念そのものがはらむ問題性」を自己言及的に省察する検討を進めてきた。「風評被害」という概念はもともと、日本の原子力分野で特有にあらわれ、それが国内他分野での類似問題にも適用されて社会通念化してきたものであるが、政策や社会における適切な対応を妨げてきたことを指摘する。代わって、実証的・客観的な分析と理解を助け、根拠のある正当な対処につながる人文・社会科学上の知見を整理して示す。

以上